



県農林技術開発センター

昨年4月に営農が始まった諫早湾干拓地では、タマネギ、パレイシヨ、レタス、キャベツなどの葉根菜類を中心に栽培が行われています。干拓営農研究部門では、干拓地の排水性の良否を評価する指標作物としてソラマメを取り上げ、栽培適応性について実証的研究を続けてきました。



小林部門長

大規模営農を想定した省力栽培を目的に、管理作業の軽減や収穫体系について検討し、一定の成果が得られたので概要を紹介いたします。

試験は慣行品種の「陵西一寸」を用いました。湿害の発生はなく、おおむね10㎡当たり1700kgの目標を超える収量を確保でき、栽培適応性で問題がないと評価されました。

冬の低温が厳しい干拓地では、開花期が3月上・中旬でそろい、5月上旬からの収穫が可能となります。特に1週目の収量は全収量の75%前後となり、

以後の収穫を省略した一斉収穫が可能です。整枝法については、3本し字誘引や4本し字誘引などの方法が一般的です。今回、4本整枝法、6本整枝法、無整枝栽培(放任)を比較した結果、無整枝栽培で収量が高く、3粒莢(きょう)率も変わらない結果となりました。摘芯や適蒞などの管理を省略しても収量性に差はなく、これらの作業も省略できると判断されました。

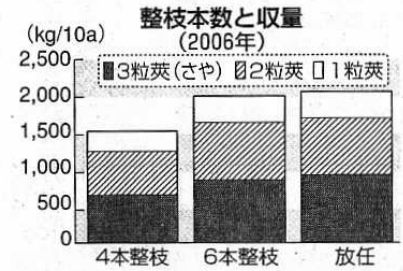
## 干拓地営農へ成果

### ソラマメの省力一斉収穫栽培法



収穫期のソラマメ

収穫は1時間当たり26㎡程度で、整枝や摘莢、摘芯などの労力を省力できることから、



総労働時間は慣行栽培の約3分の1となり、2.5〜3倍の規模拡大が可能になります。本栽培法の概要は以下の通りです。

適応品種は、県内慣行の「陵西一寸」を用い、10㎡当たり10kgの窒素を全量元肥とします。黒色マルチ被覆し、10月下旬に株間40cmで直播(ちよくは)します。発芽後本葉4枚を残して摘芯し、以後の整枝、摘莢、摘芯などは行いません。

誘引はフラワーネット(20cm×3マス)の2段張りとし、鳥害防止のため、播種後15cmの高さに展帳し、以後茎の伸長に合わせて段階的に引き上げます。収穫は開花そろい期から60日目ごろですが、莢の肥大、下垂状況を見て一斉収穫の時期を判断します。

本栽培法は、諫早湾干拓地の大規模営農を想定して組み立てた技術ですが、他の地域でも産地拡大に向け適用できる栽培法です。

(長崎県農林技術開発センター 干拓営農研究部門長・小林雅昭)